

事後評価結果（平成28年度）

担当課：北海道開発局建設部道路計画課

担当課長名：谷村 昌史

事業名	一般国道336号 浦幌道路 <small>うらほろ</small>	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 北海道開発局
起終点	自：北海道十勝郡浦幌町豊北 <small>ほつかいどうとかち うらほろ とよきた</small> 至：北海道十勝郡浦幌町字昆布刈石 <small>ほつかいどうとかち うらほろ こんぶかりいし</small>	延長	12.6km		

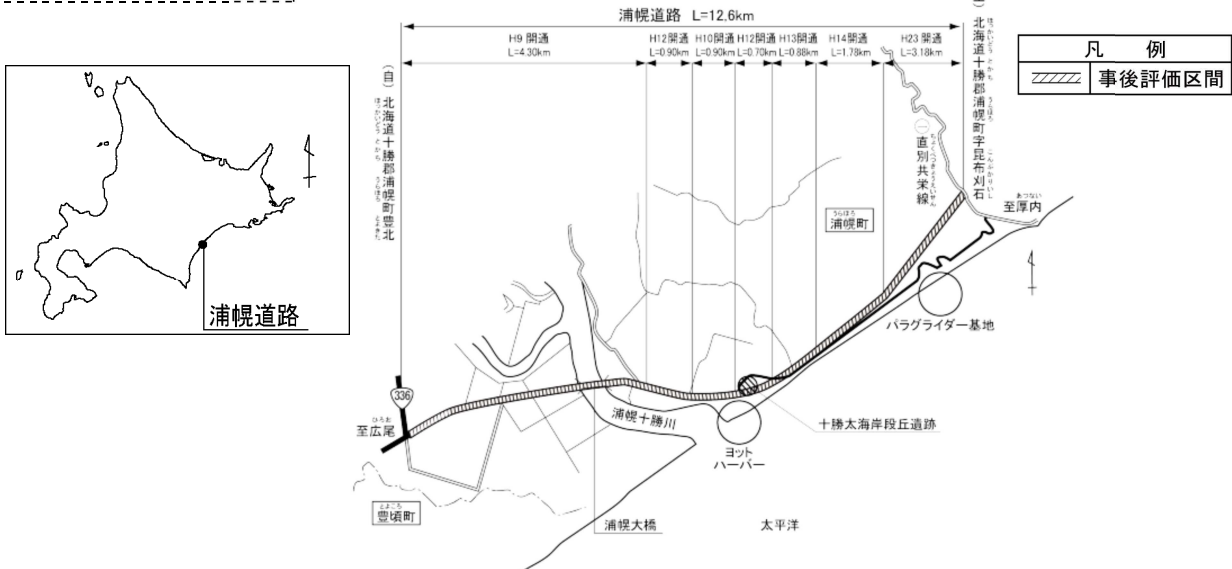
事業概要

国道336号は、浦幌町を起点とし、釧路市に至る延長約150kmの幹線道路である。このうち浦幌道路は、浦幌町豊北から浦幌町字昆布刈石に至る延長12.6kmの事業である。

事業の目的・必要性

浦幌道路は、浦幌町内における隘路区間の解消を図り、道路の安全な通行の確保を目的とした事業である。

事業概要図



事業の 効果等	事業期間	事業化年度	H4年度	用地着手	H4年度	供用年	(当初) H20年度/— (実績) H23年度/—	変 動	1.2倍		
		都市計画決定	—年度	工事着手	H4年度	(暫定/完成)	(実績) H23年度/—	変 動	1.2倍		
	事業費	計画時 (暫定/完成)	(名目値) —/ (実質値) —/	64億円 56億円	実績 (暫定/完成)	(名目値) —/ (実質値) —/	74億円 63億円	変 動	1.2倍		
	交通量	計画時 (現道)	889 台/日		実績 (現道/当該路線)	709/638台/日		変 動	152%		
	旅行速度向上	49.6 → 63.4/59.4km/h (開通前現道→開通後現道/当 該路線) (開通前年次) H6年 (開通後年次) H27年			交通事故減少	57.6 → 0.0/30.4件/億台km (開通前現道→開通後現道/ 当該道路) (開通前年次) H7~H9年平均値 (開通後年次) H25~H26年平均値					
	費用対効果 分析結果 (当初)	B/C	1.9		総費用	123億円 (事業費: 87億円 維持管理費: 37億円)		総便益	237億円 (走行時間短縮便益: 218億円 走行経費減少便益: 17億円 交通事故減少便益: 3億円)	基準年	平成18年
	費用対効果 分析結果 (事後)	B/C	1.2		総費用	158億円 (事業費: 120億円 維持管理費: 38億円)		総便益	190億円 (走行時間短縮便益: 156億円 走行経費減少便益: 28億円 交通事故減少便益: 5.5億円)	基準年	平成28年
	事業遅延によるコスト増	費用増加額		2.4億円		便益減少額		29.4億円			

事業遅延の理由

本事業は、平成4年度に事業化し、平成4年度に工事着手した。当初、平成20年度の完成を目指していたが、用地取得に時間を要したため、事業完了が平成23

年度になった。

客観的評価指標に対応する事後評価項目
事業の整備効果

- ①狭小幅員及び線形不良の解消
 - ・十分な道路幅員が確保され、急カーブ、急勾配の解消により大型車のすれ違い困難が解消し、車両走行の円滑性や安全性が向上。
- ②水産品の流通利便性向上
 - ・秋さけの輸送時間が約13分短縮。さけの卵の鮮度向上により、品質の高い商品の加工が可能となり、根釧地域の水産加工業者の売上増に貢献するなど地域の水産業振興を支援。
- ③地域産業活性化に寄与
 - ・公共牧場の経営の改善に寄与し、公共牧場の管理運営コストの低減及び地域酪農振興を支援。
 - ・拠点漁港とのアクセス向上により沿線に水産加工場が立地し、地域経済の振興に寄与。
- ④畜産品の流通利便性向上
 - ・生乳の集送乳経路が見直され集送乳が合理化し、円滑・安定的な走行が可能になり、走行中の揺れや振動に起因する生乳の品質低下を軽減。
- ⑤重要港湾への流通利便性向上
 - ・重要港湾釧路港から十勝沿岸部地域へのアクセス向上により、重油や飼肥料の輸送時間が約8分短縮され、流通利便性が向上。
- ⑥新たな周遊観光ルートの形成を支援
 - ・海岸沿いの国道336号と内陸部の国道38号の観光資源を結ぶ新たな周遊観光ルートが形成され、サイクルツアー等の新たな観光形態が発現。
 - ・パラグライダー発着場へのアクセス向上により、道外・海外観光客の移動の利便性が向上。
- ⑦道路交通の安全性向上
 - ・通過交通の分散が図られ現道並行区間の死傷事故件数が約8割減少。
 - ・道路ネットワークの多重化により、国道38号通行止め時の迂回時間を約125分短縮。

その他評価すべきと判断した項目
特になし

事業による環境変化
環境影響評価に対応する項目

環境影響評価の対象外事業である。

その他評価すべきと判断した項目
特になし

事業評価監視委員会の意見

当委員会に提出された事後評価結果準備書の対応方針については、北海道開発局案を妥当と判断する。

事業を巡る社会経済情勢等の変化

●人口・産業等の社会経済情勢の変化 (対象地域：浦幌町)

- ・人口は、事業化当時約8.4千人(H2)→開通後4.9千人(H27)となっている。(国勢調査)
- ・耕地面積は、事業化当時9,418ha(H2)→開通後10,405ha(H27)となっている。(農林業センサス)
- ・製造品出荷額は、事業化当時64.7億円(H2)→開通後152.1億円(H26)となっている。(工業統計調査)

今後の事後評価の必要性及び改善措置の必要性

浦幌道路の整備により、隘路区間の解消、道路の安全な通行の確保など当初の目的が達成されていることから、今後の事後評価及び改善措置の必要性はないものとする。

なお、今後も利用状況の把握に努めるとともに、利用しやすい道路環境を確保するため、適切な維持管理に取り組んでいく。

計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性

同種事業の計画・調査のあり方について、見直しを必要とする事項は見られなかった。また、事業評価手法について、見直しの必要性は無いと考える。

特記事項
特になし

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。